

一般社団法人日本鉱物科学会

2022年度 第2回定例理事会 議事録

【1】 招集年月日：2023年5月1日(月)

【2】 開催年月日及び時刻：2023年5月20日(土) 16時00分～18時37分

【3】 開催場所：山口大学理学部 大和田研究室
753-8512 山口市吉田1677-1
(ZOOM Meetingによるオンライン会議)

【4】 理事総数および定数：総数22名，定足数12名

【5】 出席理事数：21名

会長 大和田正明，副会長 井上 徹，池田 剛，磯部博志，大藤弘明，鍵 裕之，
亀井淳志，川本竜彦，河上哲生，興野 純，栗林貴弘，黒澤正紀，高澤栄一，辻森 樹，
土屋範芳，富岡尚敬，永井隆哉，永嶋真理子，坂野靖行，M.Satish-Kumar，三宅 亮

【6】 欠席理事数：1名 阿部なつ江

【7】 出席監事：下林典正

【8】 オブザーバー：(理事以外の幹事，委員長等報告事項報告者)

出席：片山郁夫 行事幹事，瀬戸雄介 Elements幹事，篠田圭司 2023年年会運営委員会委員長，西原 遊 JpGU2023プログラム正委員，福士圭介 同副委員，門馬綱一 新鉱物・命名・分類委員会委員長，林信太郎 教育普及委員会委員長，西山忠男 IMA小委員会委員長・学術会議連携会員，掛川 武 渡邊萬次郎賞選考委員会委員長
欠席：栗谷 豪 研究奨励賞選考委員会委員長，浜根大輔 日本鉱物科学会論文賞選考委員会委員長，道林克禎 2024年年会運営委員会委員長

【9】 議事概要

大和田理事の発議により議長を理事の互選で選ぶことになり，磯部博志理事が議長に選出された。次に，決議定足数と開始時刻における出席理事数の確認を行い，理事21名の出席を確認したので，定款30条により理事会が成立した。このことを受け，磯部議長はWEB会議システム(ZOOM Meeting)を用いての理事会開会を宣言した。また，WEB会議システムの通信状況(出席者全員の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり，適時的確な意見表明が互いにできる状況)に問題がないことを確認し，2022年度第2回定例理事会を開始した。

会議に先立ち，理事の互選で磯部博志理事が書記として選出された。

I. 報告事項

1. 会長・副会長の職務執行報告（大和田会長，井上副会長）

会長より，学会の状況について簡単な報告があった．個別の業務は各担当者に一任していることから，議事次第に沿って各担当者から報告を行う旨，発言があった．

2. 会員報告（阿部会員幹事・理事 代理：磯部庶務幹事）

阿部会員幹事の代理として，磯部庶務幹事より2022年度第2回臨時理事会(2022年12月22日)以降の会員動静について以下の通り報告がなされた．

物故会員1名（名誉会員1名），退会者14名（シニア会員1名，一般会員4名，学生会員9名），復活1名（学生会員1名）

この結果，2023年5月20日現在の会員数は

808名(2022/12/22臨時理事会)+1(復活)-1(物故)-14(退会)=794名 となった．

なお，8名の入会申込みに対し，この後審議を行う．

3. 広報報告（大藤広報幹事・理事）

大藤広報幹事より，広報活動について以下の通り報告がなされた．

1. 会員へのメールニュース送信

雑誌の刊行案内，2023年年会のお知らせ，公募情報，関連学会の催し等の案内などのほか，オンライン会員管理システムの導入に関する周知および登録方法の説明を配信した．

2. 学会HPおよび公式SNS（Facebook，twitter），YouTubeを通じた広報活動．

学会ホームページの更新は宮地さんにご担当いただき，学会事務連絡，学術雑誌の刊行案内，公募情報，関連学会の催し等の案内などの周知を行った．また，公式SNSにおいてもそれらの情報を発信し，また会員関係者から依頼のあった周知情報の発信を行った（催し・お知らせ1件ほか）．YouTubeチャンネルでの公開動画も徐々に視聴回数上昇中．今後も新たな動画を配信予定．

3. 学会新HPの作成と公開準備

これまで長年，学会ホームページを管理・運営していただいた宮地さんの退職に伴い，各委員会・幹事レベルで更新・管理・運営が可能な新HP（WordPress形式）の作成を株式会社アクセライトへ依頼し，現在も打合せを重ねて完成を目指している．4月中旬にデザインやコンテンツを取りあえず確認できるHP案を提出いただき，その後5月1日にオンラインミーティングを行い，変更・修正や更新の方法について説明を受けた．現在，若手広報委員を中心にレイアウトの整備やコンテンツの確認，修正作業を詰めており，来月中を目途に公開（現行HPから移行）予定．HP改定状況について，画面共有により紹介があった．

4. 地学オリンピック「地球にわくわく未来ガイド」への広告掲載

地学オリンピック参加者へ配布する冊子「地球にわくわく未来ガイド」に日本鉱物科学会の紹介広告を掲載した．

5. JpGU2023における現地ブース展示

日本地球惑星科学連合2023年大会JpGU2023（幕張）において，3年振りに現地ブース展示を行う予定．

4. 渉外報告（永島渉外幹事・理事）

特に報告事項なし．

5. 和文誌編集報告（高澤和文誌幹事・理事）

高澤和文誌幹事より、編集状況および2022年12月27日ならびに2023年5月15日に開催された和文誌GKK編集委員会について、画面共有により報告がなされた。

(1) 編集、発行状況

51, 52巻で原著論文1編、電子ジャーナル3編公開、早期公開1編、現在査読中の論文6編

(2) 編集委員会報告

早期公開を再開した。

編集作業については、小宮山印刷工業の猪狩さんへの引き継ぎがほぼ完了した。

投稿規定および編集規則を改定し、依頼原稿を推進する。

総説にサブカテゴリーを設け、「総説 講義シリーズ：鉱物の物理」を企画する。

6. 英文誌編集報告（M. Satish-Kumar英文誌幹事・理事）

M. Satish-Kumar英文誌幹事より、編集状況および2023年5月18日に開催されたJMPS編集委員会について報告がなされた。

1. JMPS現状報告

(1) 投稿数状況：2022年下半期以降は、2019年以前の状況に戻りつつある。

(2) 編集状況：本公開準備中：3件、早期公開・印刷準備中；2件、査読中：11件、返却中：17件

(3) 発行状況：

117巻1号 原著論文10編、Letter 4編、Technical Note 1編 Editorial Message 1編 計157頁

118巻1号 原著論文10編 Letter2編 計125頁

(4) 2022 JMPS Impact Factorは、0.7程度。昨年より若干低下している。Special Issueによって上昇することを期待している。

2. Special Issue on Antarctica について

受理6編、査読中6編、返却中6編

3. 編集委員会報告

JpGU2023レター論文投稿募集中

JMPSのwebページはリニューアル作業中であり、6月中に公開予定

編集作業については、GKK同様に小宮山印刷工業の猪狩さんへの引き継ぎがほぼ完了した。

JMPSが著作権を持ち、フリーアクセスとなっている論文がweb上で有料提供されていることがわかった。この件について、著作権団体と相談することとなった。何か情報がありましたらお知らせ頂きたい。

7. 庶務報告（磯部庶務幹事・理事）

磯部庶務幹事より、2021年度総会関連ならびに2022年度第1回定例理事会以降の庶務幹事所掌事項について以下の報告がなされた

1) 2021年度定例総会開催（新潟大学）、総会招集通知資料発送、総会議事録作成確認

2) 2022年度第1回定例理事会、第1回臨時理事会、第2回臨時理事会、第2回定例理事会（すべてWEB会議）開催関連、WEB会議準備、資料作成、議事録作成

3) 事務局委託、会員管理システム更新にかかわる引継作業

事務局委託については、主要項目についてはほぼ完了した。新会員管理システムは既に稼働している。

4) 共催，協賛については，例年通り対応した。

5) 会員への連絡

各賞公募会員アナウンス等，会員へのアナウンスについても委託先の新事務局を経由する体制となっている。

8. 行事・年会報告（片山行事幹事）

片山行事幹事より，2023年年会（大阪公立大学）の準備状況について以下の通り報告がなされた。

第1報はメールニュースとしてアナウンスを行った。

年会webページは，主要日程等準備が出来た部分から既に公開している。

今年の年会での変更点については，本理事会での協議題として審議して頂きたい。

9. Elements報告（大和田会長，瀬戸Elements幹事）

大和田会長より，5月10日に開催されたExecutive Committee Virtual Meeting について報告された。JAMSからは参加していないが，議事メモが送られてきた。赤字への対応策として，冊子体から電子版へ切り替える方針が承認されたとのこと。EマガジンPreview形式を採用する。JAMSとして電子化への反対はしない。電子版の会員への配信方法について照会があった。

JAMS財政問題とかかわるため，電子化による経費削減状況を注視する必要がある。引き続き，情報収集，検討を続ける。

瀬戸Elements幹事より，発行状況ならびにSociety newsの準備状況について報告された。昨年の発行遅れについては，順調に遅れを取り戻しつつある。

10. 2022年度会計中間報告（栗林会計幹事・理事）

栗林会計幹事より，日本鉱物科学会2022年度会計収支中間報告(2022年8月1日～2023年5月17日)について，収支表が提示され詳細な説明がなされた。

5月17日現在の会費収入は，例年の検討課題である再三の会費請求の通知にも拘らず，学会会費納入に遅れがあるため，当初予算よりも3割ほど収入が少ない状態である。4月より新会員管理システムを通じた会費納入が始まったので，引き続き納入依頼を行い，収入を確保する。出版物収入と広告収入はほぼ予定通りの状況で推移している。今後の収入は，未収会費の回収と出版物収入で計100万円程度を見込む。

今年度の予算支出について，事務局委託や引継，各種システム更新に伴う臨時支出が計上されている。刊行費については現状，予算の4割程度が支出済みで，一部請求待ちの状況である。集会費（新潟大会）の支出は約320万円となった。Elements購読費は，円安の影響で予算超過の約170万円となった。

管理費では，事務委託費がまだ支出されていないが，クレジット決済SMOOSYの利用に伴い，当初見積りよりも減額となる見通しである。4月からのSMOOSY運用に伴い，送金手数料等は増えることが見込まれる。また，Webページ作成費用と管理費は年度内に請求される予定である。単年度の収支は，今年度予算通り大幅な赤字(約170万円)が見込まれる。

Elements冊子の単価について質問があり，総額は半期US\$6,000×2=US\$12,000であり，現状では\$16（¥2000）程度になっている旨説明があった。

11. 2022年年会会計決算報告（栗林会計幹事・理事）

栗林会計幹事より、2022年年会(新潟大学)の会計決算について決算表が提示され説明がなされ、2022年年会については、新潟大学LOCの多大なご尽力により新潟市、新潟県からの多額の補助金を頂くことができ、お陰様で、費用のかかるハイブリッド開催を盛会としてとりおこなえたことが報告された。なお、法人化後は年会会計決算も7月の決算に合算され8月に監査を受け、総会の承認を受けることになるので、今回は報告のみとする。

12. 将来企画委員会報告（井上委員長・副会長）

5月16日15:00より、オンラインで開催した将来企画委員会での議論について、井上委員長より議事録に従って次の通り説明があった。

- (1) JMPSについて、科研費研究成果公開促進費へ申請することとする。
- (2) 寄付金を募る努力を始める。若手育成等、用途を明確にすることを検討する。
- (3) Elementsはすぐに脱退よりも維持しつつ収入増を目指す方向で議論する

学生会員の会費一括納入の学生パックを導入しては、

寄附に加え、目的を明示したクラウドファンディングはどうか。

学会会員のメリットをわかりやすく示し、会員増と共に収入を増やすため、取り組みやすいことから始め、検討を継続する。提案等がありましたらお知らせ頂きたい。

13. IMA小委員会・学術会議報告（西山IMA小委員会委員長）

5月20日に開催されたIMA小委員会について、西山委員長より説明があった。

IMAメダル委員会委員は、東北大辻森氏が任期満了により退任し、広島大井上氏が就任した。

IMA博物館委員会にて、2028年の M&M11 に中国が立候補検討中である旨報告された。

Commission of Physics of Minerals の活動が報告され、再編と活動見直しがなされた。執行部が交代し、Chair に Paola Comodi 氏が、Vice chairに愛媛大土屋旬氏が就任した。

サブセクションが見直された。4サブセクションが設定された。うち二つに、東北大大藤氏、愛媛大土屋氏が参加している。

IMA評議会においてCPMの活動について評価が行われ、それに対する対応として「認知度の向上」および「活動・サービスの向上」を目指すこととなった。

IMA Councilでは、1st vice president に東北大大谷氏が就任した。次期Presidentに選出の見通し。Councilors には、東北大大藤氏が加わる。

次回IMAは2026年に中国、南京で開催される。

各Commissionを越えた問題に対応し、公平、公正に調停等を議論するためのIMA Mediation committeeが設立された。

Web Masterの大藤氏らが中心となり、新webページへの移行が準備中。

14. JpGU 2022年学会選出プログラム委員報告（西原委員長）

西原委員より、JpGU2023において学協会セッションとして「鉱物の物理化学」、「岩石・鉱物・資源」が開催予定。奮って参加をお願いします。

15. 新鉱物・命名・分類委員会報告(門馬委員長)

門馬委員長より、特段の報告事項は無い旨報告された。通常通り申請、審議が進められて

いる。次回、新種鉱物等について報告する。

16. 教育普及委員会報告（林信太郎委員長）

林委員長より、5月16日に委員会を開催した旨報告された。中学教科書鉱物名表記問題を引き続き検討中。検討後、会長へ報告する。

会員の教育普及活動の調査を行っている。YouTubeで活動している事例が見られる。情報があれば提供願いたい

17. 博物館委員会報告（坂野委員長・理事）

坂野委員長より、1月に開催されたIMA博物館委員会等について報告された。

2028年のM&M11 は中国が立候補検討中。

博物館の定義や統合化デジタルカタログ、鉱物科学研究のデジタル化などについて討議された。

現理事会メンバー3名は再選される見通し。

世界鉱物年ロゴが東大総合博物館に掲示された。

18. その他の報告

(1) WRI-17組織委員会報告（土屋組織委員長・理事）

岩石－水反応部会として報告 コロナの影響で2年遅れとなったが、ほぼ完全対面で開催する。

現状約300件の申込みがある。350を超えることを期待。海外からの参加者もこれから増える見通し。

地震と水関連のテーマが多く、同位体関連が少ない傾向。

学生参加費の立替え制度あり。参加を促していただきたい。

(2) その他

特になし。

II. 審議事項

第1号議案 新入会承認（阿部幹事・理事 代理：磯部庶務幹事）

阿部会員幹事の代理として、磯部庶務幹事より、シニア会員1名、一般会員2名、学生会員5名、(記載省略)の入会申請が紹介された。うち、シニア会員1名は紹介者がなく、自己紹介文による申込みであったため、略歴および自己紹介文を提示した。審議の結果、8名すべて異議なく入会が承認された。この結果、2023年5月20日現在の会員数総数は802名(内訳一般会員522名、シニア会員164名、学生会員76名、永年会員30名、名誉会員10名)で、2022年8月24日の定例理事会後より7名の減少となった。

第2号議案 各賞選考委員会報告と審議（大和田会長）

(1) 日本鉱物科学会賞選考委員会授賞候補者報告と審議(報告：辻森委員長・理事)

日本鉱物科学会賞選考委員会辻森委員長より、2022年度日本鉱物科学会賞第27回ならびに第28回授賞候補者として山口 亮 会員ならびに芳野 極 会員が報告され、受賞者として異議

なく承認された。

2022年度日本鉱物科学会賞第27回受賞者

氏名：山口 亮 会員（国立極地研究所）

業績題目「初期太陽系における分化天体の進化に関する鉱物科学的研究」

2022年度日本鉱物科学会賞第28回受賞者

芳野 極 会員（岡山大学惑星物質研究所）

業績題目「地球惑星内部物質の電気伝導度に基づく核及びマントルダイナミクスの研究」

(2) 渡邊萬次郎賞選考委員会授賞候補者報告と審議（報告：掛川委員長）

渡邊萬次郎賞選考委員会掛川委員長より、委員会で慎重に審議し選考した結果、2022年度渡邊萬次郎賞受賞第39回授賞候補者として豊 遙秋永年会員を推薦することが報告された。審議の結果、受賞者として異議なく承認された。

(3) 日本鉱物科学会論文賞授賞論文選考について(報告：浜根委員長 代理：磯部庶務幹事)

日本鉱物科学会論文賞選考委員会浜根委員長の代理として、磯部庶務幹事より本年度の選考において第二次投票の得票数がいずれも10点未満であったため、論文賞選考内規に従って受賞対象なしとなった旨が報告された。

(4) 日本鉱物科学会研究奨励賞授賞候補者報告と審議(報告：栗谷委員長 代理：片山副委員長)

日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会栗谷委員長の代理として、片山副委員長より、選考委員会で規定に則った審議の結果、2022年度日本鉱物科学会研究奨励賞第33回ならびに第34回受賞候補者として西山 直毅 会員ならびに松本 徹 会員を推薦することが報告された。審議の結果、受賞者として異議なく承認された。

2022年度日本鉱物科学会研究奨励賞第33回受賞者

西山 直毅 会員（産業技術総合研究所地質調査総合センター）

研究対象：地質媒体中の物質移動と岩石-水相互作用に関する研究

2022年度日本鉱物科学会研究奨励賞第34回受賞者

松本 徹 会員（京都大学白眉センター/大学院理学研究科）

研究対象：地球外試料から探る宇宙風化に伴う固体物質の進化

(5) 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会授賞候補者報告と審議(報告：興野委員長・理事)

応用鉱物科学賞選考委員会興野委員長より、選考委員会での審議の結果、2022年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞第15回受賞候補者として杉浦悠紀会員を推薦することが報告された。審議の結果、受賞者として異議なく承認された。

2022年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞第15回受賞者

杉浦悠紀会員（産業技術総合研究所）

業績題目：術後感染症防止機構を付与した骨再生材料の開発

(6) 櫻井賞選考委員会授賞候補者報告と審議（報告：松原委員長 代理：磯部庶務幹事）

櫻井賞選考委員会松原委員長の代理として、磯部庶務幹事より、選考委員会で規定に則った審議の結果、2022年度櫻井賞第46回授賞候補者として富岡尚敬会員を推薦することが報告された。審議の結果、受賞者として異議なく承認された。

2022年度櫻井賞第46回受賞者

富岡尚敬 会員（海洋研究開発機構）

対象鉱物：秋本石

Tomioka, N. & Fujino, K. (1999). Akimotoite, (Mg,Fe)SiO₃, a new silicate mineral of the ilmenite group in the Tenham chondrite. *American Mineralogist*, 84(3), 267–271.

(7) 2022年度JMPS学生論文賞授賞論文候補報告と審議（報告：M. Satish-Kumar JMPS選考委員長）

JMPS学生論文賞選考委員会Satish-Kumar委員長より、2022年度JMPS学生論文賞対象論文について委員会で検討した結果、第15回並びに第16回授賞論文として下記の2編を推薦することが報告された。審議の結果、異議なく承認された。

第15回受賞論文：Crystal structure of nesquehonite, MgCO₃·3H(D)2O by neutron diffraction and effect of pH on structural formulas of nesquehonite. *JMPS* v.116-2, p.96-103, 2021

受賞者：Gen-ichiro YAMAMOTO（山本弦一郎 投稿時：筑波大・博1在）

第16回受賞論文：Tracht change of groundmass pyroxene crystals in decompression experiments. *JMPS* v.117, 003 (6p), 2022

受賞者：Shota H. OKUMURA（奥村翔太 投稿時：京都大・博2在）

第3号議案 研究発表優秀賞選考委員会に伴う新委員長の会長指名（大和田会長）

委員長(会長指名)として本年度1期目副委員長である瀧川晶会員が承認された。新規委員については、瀧川委員長による指名に基づき、次回理事会において審議する。

第4号議案 2023年度収支予算案の審議（大和田会長、説明：栗林会計幹事・理事）

栗林会計幹事より、2023年度収支予算案が提示され、詳細な説明がなされた。

新事務局への移行に伴い、変更等のある収入・支出項目について説明があり、収支バランスとして2023年度は単年度黒字を予定するとの説明があった。なお、収入項目は、会費収入・出版物収入・広告収入・年会収入・雑収入であり、会費収入は、本年度とほぼ同額を見込んでいる。実数は会期末の会員数を元に修正する。出版物収入は例年通りの予算とした。年会収入（大阪大会）は、収支バランスを0として計上し、雑収入も例年通りが見込まれる。一般会計として、総額約1000万円で2023年度の運営を行う。

一方、支出項目は、刊行費、集会費、エレメント購読費、管理費で大別される。学会賞副賞費用関連は特定資産から支出される。刊行費には編集委託費が、集会費には年会収入とZoom使用料などを含む。学会賞副賞は表彰内定者数を基に計上し、学生発表優秀賞も計上す

る。Elements購読費は、今年度と同額を計上する。管理費には、公認会計士報酬、事務局委託費、東北大キャンパス内事務局（旧事務局）維持費用、送金手数料、HP維持費・サーバー管理費が含まれる。事務局委託費は、SMOOSYのクレジット決済利用によって業務が減るため、当初見積金額より減額される予定。旧事務局の維持管理等、旧事務局に関する検討事項がある。送金手数料項目には、新たにクレジットカード決済手数料が含まれるため、予算を増額する。2023年度は、財政再建の取組みの結果として、Elements購読費に今年度と同額を計上しても収支バランスが取れる状況にあるが、事務局費は、これ以上の減額が難しいので、特に、Elements購読費等への対処が必要であり、この対応ができれば、財政再建の目処が立つと考えられる。なお、事務局委託に伴い経費負担が減少しているが、事務局業務委託の契約内容は、主に会員、会計と庶務の一部の業務と、編集業務の委託であり、広報、庶務、行事の業務委託は含まれず、各委員会にお願いしているため、幹事の業務が増える点は今後の懸案事項である。なお従来の人件費と比較して、約30万円の減額がなされた。

質問 Elementsの電子化による削減はあり得るか。

回答 電子化が進めば可能性があるのではとElementsに期待するが、Elements側の苦しい経営状況からあまり変わらない可能性もあり。

一部修正提案

広報幹事から、JpGU会場での学会オンサイト展示について、学生アルバイトの人件費の支出が提案された。

以上の審議の後、2023年度収支予算案は一部修正の上承認された。なお、例年通り、今回の第2回理事会では、現時点での予算案についてご審議・ご承認をいただいたが、7月末の決算時に繰越金を積算して更に補正予算を立て、第3回定例理事会に提出して最終承認を受けることになる。予算は理事会承認事項であり、総会承認事項ではないが、総会では最終予算案を報告する。

第5号議案 2023年年会の開催について（磯部庶務幹事・理事，説明：片山行事幹事，篠田2023LOC委員長）

磯部庶務幹事より、2023年年会の日程概要について提示され、片山行事幹事から詳細について説明があった。日程の概要は、年会初日は午後からセッションを開始し、二日目午前はセッション、午後に総会、受賞講演、懇親会を予定している。

本年の予定では、受賞講演後の理事会開催が難しいため、理事会を総会翌日、三日目に開催することを提案する。

また、学生研究発表賞の審査に十分な時間を掛ける必要があることと、表彰者の出席が得られないことがしばしばであったため、クロージングセレモニーは開催しないことを提案する。

上記2点の提案について審議し、異議無く承認された。

なお、代表理事である会長が改選のタイミングで不在となることを防ぐため、第1回定例理事会は定時総会と同日に開くことが原則となっている。本年度は会長の任期が継続されるため、

特例として翌日に理事会を開催することとしたことを、年会開催についての引き継ぎ事項として記録する事が確認された。

第6号議案 2024年年会(名古屋大学)運営委員名簿提出および日程案について（磯部庶務幹事・理事，道林2024LOC委員長）

磯部庶務幹事より、名古屋大学で開催される2024年年会の現地運営委員会のメンバーについて道林2024LOC委員長による指名として次のような構成とすることが提示された。

2024年年会 現地運営委員

委員長：道林克禎（名古屋大学大学院環境学研究科）

委員：瀨瀬佑衣（名古屋大学大学院環境学研究科）

委員：加藤丈典（名古屋大学宇宙地球環境研究所）

委員：丹羽健文（名古屋鉱物同好会）

委員：丹羽美春（豊橋市自然史博物館）

日程は、2024年9月12日（木）～14日（土）を予定している。

審議の上、異議なく承認された。

なお、地質学会は山形で9月8～10日に、地球化学会は金沢にて9月18～20日に開催予定とのこと。

第7号議案 行事委員追加（磯部庶務幹事・理事，説明：片山行事幹事）

磯部庶務幹事より、新行事委員として2024年LOCから瀨瀬佑衣会員が提案された。経緯について片山行事幹事から説明があり、審議の上、異議なく承認された。

第8号議案 総会開催日について（磯部庶務幹事・理事）

磯部庶務幹事より、2022年度定時総会を2023年年会期間中の2023年9月15日にWEB会議を含めて開催することが提案され、異議なく承認された。

これに伴い、議案書の決定を行う 2022 年度第 3 回定例理事会を 2023 年 8 月下旬（21～26 日）に開催する。2022 年度総会における会計・業務執行報告、決算書等の監査は、下林監事と日程打合せの上、第 3 回理事会開催時刻前の当日、又は数日前までを目処に監査を実施する。

会計決算書の作成は、7 月末まで事務局で帳簿作成を完了、その後監査に間に合うように顧問先に決算書作成を依頼する。

その他審議事項

特になし。

会議の最後に、事務局委託に伴ってwebページ更新業務等の広報関係案件は小宮山印刷への依頼事項に入っているかどうかについての質問、および委託先へ依頼できる業務と、各幹事等が担当すべき事項の整理が再度必要ではないかとの指摘があった。栗林会計幹事、磯部庶務幹事より、事務局の引継は進みつつあるが、まだ完全に移行する段階には至っていないため、今後も逐次ご報告しつつ進めて行く旨説明があった。

【10】閉会

閉会 以上の議事を終え、18時37分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、出席した会長、副会長及び監事がこれに記名押印する。

令和 5年 6月 15日

会 長 大和田 正明 印

副会長 井上 徹 印

監 事 下林 典正 印

(配布時押印省略)